

夏の日に 咲き広ごれる

稲の花 実りの秋へと

明るみてくる

皇嗣殿下

— 宮内庁 令和三年歌会始 お題「実」

毎年、終戦日である八月十五日の午後より関東大震災・東京大空襲で亡くなられた約一六三〇〇〇体の遺骨が安置されている東京都慰霊堂（墨田区横網町公園内）において都内戦災・震災殉難者慰霊祭を斎行し、御霊に慰霊の誠を捧げ平安をお祈りします。

当日の祭祀は、東京都神道青年会の青年神職が奉仕いたします。皆様方のご参列をお待ちしております。

▼この祭事に関するお問い合わせは
東京都神社庁 ☎〇三（三四〇四）六五二五まで

神道知識への誘ひ「祖先崇拜」

死後、御霊の在る幽世かくりよは私達の居る現世と異なる世界ですが、一方の働きによって招き招かれるとされています。御霊は遠いところへ行つたきりではなく、再び戻って来ることが出来る場所にいると信じられています。私達が祈り偲ぶことによつて御霊と通じ、御霊も私達に何らかの事象を通して知らせてきます。殊に祖先の御霊（祖霊）は、子孫を擁護し見守るうとする温かい親心に溢れ、決して見捨てぬという慈愛の念に満ちており、多くの祖霊たちが

一体となつて子孫末裔を護ろうと幽世と現世を行き来しております。祖霊を敬虔にお祀りすると祖霊は守護神となり、何処からか子孫を護り導いてくださいます。この祖霊を神として崇め尊ぶ姿勢こそ、日本人の内面に今も尚信仰される祖先崇拜です。天神地祇みかみのみことの恩頼を蒙り、祖霊たちの絶え間ない働きによつても生かされていることに気付き感謝し、お盆には真心をもつて祖霊祭祀に専念することが、心豊かな生活へと繋がります。

